

サゴヤシプランテーション内の雑草
ーインドネシア リアウ州の例ー
山形大学大学院農学研究科生物生産学
入江 修平、角田 憲一、佐々木 由佳、安藤 豊

Weeds in sago palm plantation
-Case study in Tebintinggi Island, Riau, Indonesia-

Shuhei Irie · Ken-ichi Kakuda · Yuka Sasaki · Ho Ando
Faculty of Agricultural, Yamagata University

<目的>

サゴヤシは粗放的な管理においても栽培可能であるが、土壌養分や光をめぐる雑草との競合がサゴヤシ栽培において問題となる可能性がある。しかし、サゴヤシ栽培地の雑草調査は行われておらず、基本的な情報が欠如している。本研究は、強酸性・貧栄養・高地下水位の低湿泥炭地帯のサゴヤシプランテーションにおいて、サゴヤシの生育ステージごとに雑草の種類・乾物重・群落の高さを調査した。

<材料と方法>

①調査地：インドネシア リアウ州トュビンティンギ島サゴヤシプランテーション②調査時期：2009年7月、2010年7月、11月③調査圃場：定植後7ヶ月目 1圃場、定植後5年目 1圃場、定植後10年目 8圃場④調査方法：定植後7ヶ月目の圃場ではサゴヤシが中心となるように2m×2mの正方形区、定植後5年目、10年目の圃場では10m×10mの正方形区を設置。サゴヤシ区画内の雑草群落高を測定後、雑草を採取。定植後7ヶ月目、5年目のサゴヤシは、樹高（地上部から草冠までの長さ）。定植後10年目は樹幹長（樹幹基部より最下位葉の着生節までの長さ）を測定。⑤調査項目：【雑草】種類、雑草ごとの乾物重、群落高【サゴヤシ】定植後7ヶ月目、5年目 樹高。定植後10年目 樹幹長。

<結果>

①雑草の単位面積当たり乾物重は10年目において0.31kg m⁻²であった(図1)。統計的には明らかでないが、5年目の雑草量が最も多く、10年目はそれよりも少なくなった。②雑草の種類は移植後7ヶ月目で2種類、5年目で5種類、10年目で1種類となった(図2)。それぞれのサゴヤシの生育ステージで、*Nephrolepis cordifolia*の乾物重(シノブ科タマシダ属)が全雑草の乾物重に対して、大きな割合を占めた(図2)。③雑草群落の高さは7ヶ月目で1.5m、5年目と10年目では2.0mとなった。サゴヤシの樹高は7ヶ月目で0.8m、5年目で3.2m、10年目で6.4mであった(図3)。

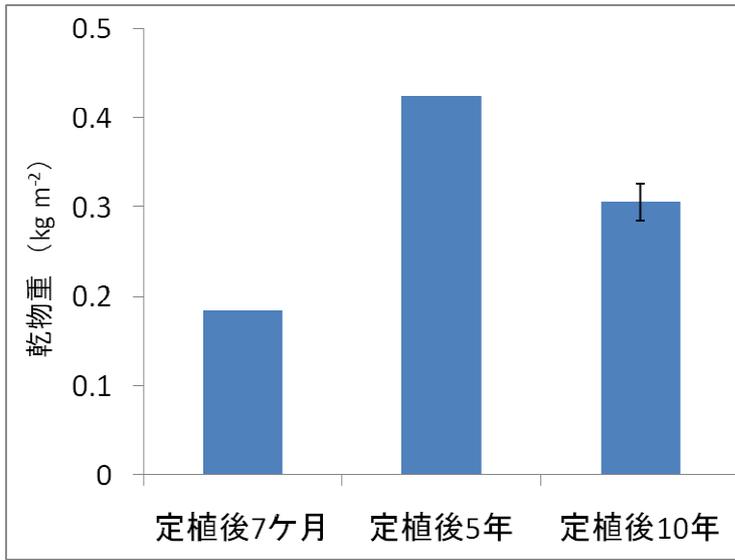


図1 雑草乾物重

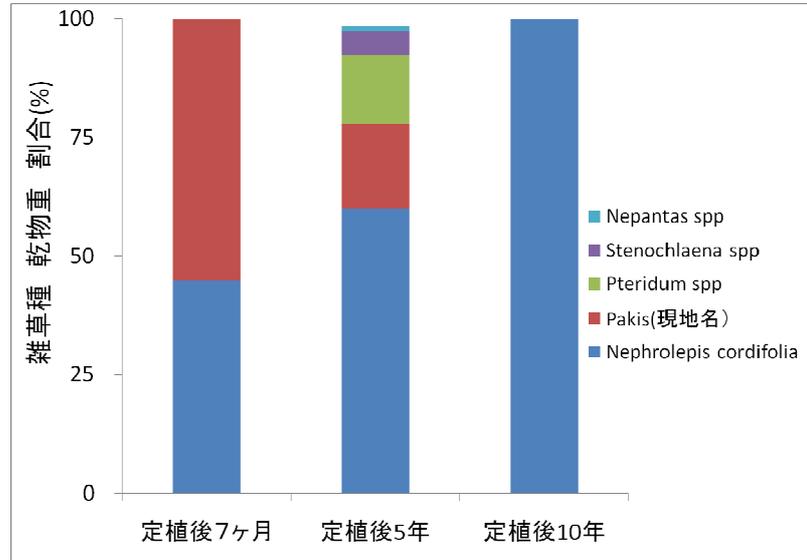


図2 雑草種 (乾物重ベース)

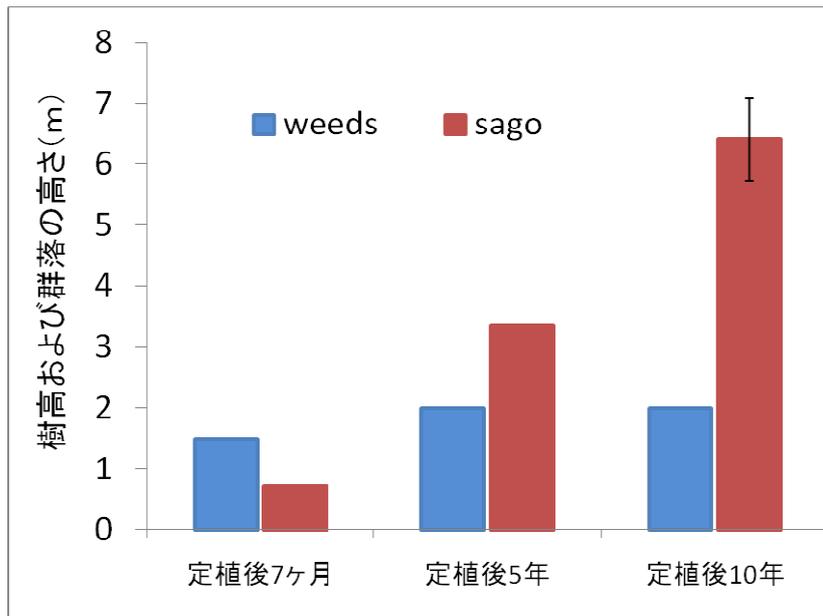


図3 サゴヤシの樹高および樹幹長と雑草の群落の高さ